

中東変動の未来と多様性

東京大学大学院教授
山内 昌之

- * 中東地政学の変化と新たな構図
- * 存在感増すGCCの拡大路線
- * 漁夫の利を得たイランだったが
- * 「奢れる者久しからず」を地で行く
- * 中東の改革モデルとしてのトルコ
- * トルコの現実主義とイスラエル
- * 「アラブの春」は「中東の暑い夏」へ
- * 共和制は善で君主制は悪か？
- * 「恐怖の壁」を乗り越えた民衆革命
- * 激しいイラン政治の権力闘争



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

今日は山内先生においでいただきましたが、改めてご紹介する必要はないでしょう。今日のレジュメにも先週、日経の夕刊に載ったインタビュー5回分のコピーを載せてあります。いいインタビューですから、お読みいただければそれで十分かと思えます。去年は幕末のお話をしていたいただきましたが、政治のリーダーシップということでとても面白かったですね。

今日、新内閣が出来ますので、改めて日本の政治とリーダーシップの話も面白かと思えますが、粘りに粘ったカダファイ政権もいよいよ最終段階ということでリビア情勢を含め中東が大きく動いておりますので、今日はその辺の話をたっぷりとお伺いすることにしたいと思います。

この話は、山内さんでなければ聞けない貴重なものですから、お休みにならず（笑）せいぜいしっかりとお聞きいただくようお願いいたします。（拍手）

山内 山内です。よろしく申し上げます。今日は座らせていただきます。

先週、私は中東に出張しました。トルコのイスタンブールで日本の経済産業省が主催する中東協力現地会議というのがございまして、その基調講演に行っていました。浅野理事長のご紹介にもありましたが、今まさにリビアの支援国会合というものが開かれまして、会議を主宰したのはトルコの外務大臣ダウトオールです。

最近、トルコは積極外交を展開していきま